

◎ 5 学 年

学級担任	機械工学科	松田 雄二
	電気工学科	尾西 康次
	電子制御工学科	今井 伸明
	生物応用化学科	杉本 榮佑
	材料工学科	相根 博道

(目標)

5年生全員卒業と全員の卒業後の進路決定

(方策)

1 就職、進学に関する面接練習などの進路指導を行う。

1) 就職希望学生の企業説明会からの指導

本年度から例年4月に行われていた企業説明会が2月に行われることになった。

したがって、現4年担任の牛尾教官と協力して、学生の“進路希望調査”(本科独自の調査項目による)を1月中旬に終了した。

この調査書もとに2月13日の“企業説明会”から指導を行なった。

2) 同調査では進学希望の学生も把握できている。

進学希望者についての指導は、4月に入ってから開始した。

3) 大半の学生にかかる実質的な進学、就職の面接指導は4月からとなった。

2 欠課の多い学生および受講態度の良くない学生への注意と場合によっては保護者への連絡等による連携を図る。

5年生では卒業が目前にあるため、学習意欲を無くし欠課が多くなるような学生は少ない。

成績の不振者は若干名居り、これら学生には、日頃から学習態度等に問題があれば注意し、中間、期末試験成績からは、取りこぼしの無いように指導した。

幸い、全員には卒研指導教官としての誰かが配属されているので、その教官と連絡を取り、努力させるよう指導したのも数件あった。

3 成績不振者への注意と場合によっては保護者への連絡等による連携を図る。

幸い、今年度は保護者等への連絡を行ない連携した指導を行なう学生はいなかった。

親も同意して就職活動を自分勝手に行ないそうな姿勢のみえる学生が一人居たので、親共々注意

した。

4 盗難防止対策として、持ち物、貴重品の管理は、自分できちんと行うよう指導する。

本科では盗難等の被害は無かった。

○ 総括的な評価と課題

本科では計画に沿った指導が出来たものとする。

就職に関して、企業側の高専に対する姿勢は、表面的には日本経団連の“倫理憲章”の遵守にあるが、実質的には3月中から就職指導を行なっておかないと入社試験に不利となる大企業が少なく無い。

従って、学科によっては4年次の段階から就職指導が必要になるところもあり、この対策がこれからの課題となろう。